

日蓮大聖人御書全集

ときどのごへんじ

富木殿御返事

しかんだいご
こと

(止観第五の事)

新版
1273

ときどのごへんじ しかんだいご こと

富木殿御返事（止観第五の事）

ぶんえい ねん ときじょうにん

文永6年（'69）12月22日* 富木常忍

しかんだいご しょうがつついたちたつとき 読 始 そろろう

止観第五のこと、正月一日辰時、これをよみはじめ候。

みょうねん せけんそろろう 由 みなひともう

明年は世間怱々なるべきよし皆人申すあいだ、一向後生の

じゅうごにち しかん だん そろろう ふみ 数 多 そろら

ために十五日まで止観を談ぜんとし候が、文あまた候わ

そろろう おんはか そろろう

ず候。御計らい候べきか。

はくまいいっと おんごころざしもう 尽 難 そろろう かまくら せけん

白米一斗、御志申しつくしがとう候。鎌倉は、世間

渴 そろろう そろ 数 多 かこ がきどう く

かつして候。僧はあまたおわします。過去の餓鬼道の苦を

償 そろら

ばつぐのわせ候いぬるか。

ほうもん

にほんこく

ひと

しん

がん

そうら

法門のこと、日本国に人ごとに信ぜさせんと願じて候い

がん

じようじゆく

そうろう

とうじ

もうこ

かんもん

しが、願や成熟せんとし候らん、当時は蒙古の勘文に

せけん 和

そうろう

しさい

み

そうろう

もと

よりて世間やわらぎて候なり。子細ありぬと見え候。本

しん

ひとびと

よろこ

そうろう

きようきようきんげん

より信じたる人々は、ことに悦ぶげに候か。恐々謹言。

じゆうにがつにじゆうににち

にちれん

かおう

十二月二十二日

日蓮

花押

ははあま 御前

殊

ほけきよう

ごしんじん

深

母尼ごぜんにはことに法華経の御信心のふかくましま

そうろう

よろこ

い

そうろう

もう

たま

そうら

し候なること、悦び入って候と申させ給い候え。